

## On Stage展のあとで……

写真家 あがた・せいじ\*

私はこの7月から9月にかけての2カ月間、ひょんなことから東京・六本木のホテルアイビスのミニギャラリーで、個展を開催することができた。この起りこは、5月末から6月にかけて行った写真家ユニオン主催のオリジナルプリント展なのだが、これに私が初出品し、それがあつ写真ディレクターの目にとまって、急きょ個展をという話になったのである。私のオリジナルプリントは1点も売れなかったのだが、まさに瓢箪から独楽である。

展示した作品は著名な15人の音楽アーティストの舞台写真、題して「On Stage」。一番古いのは、1970年、39年前に撮影したもの。そして最も新しいものでも1999年、10年前のものである。名前を挙げると、年配の方は「ああ知ってる、知ってる。なつかしいなあ」と言ってくれる。ひとりも知らないか、あるいはどんな歌を歌っていたのか聴いたことがないとおっしゃる方はお若い証拠。生まれ順に並べると、マルビナ・レイノルズ、シャルル・トレネ、シャルル・アズナヴール、サラ・ヴォーン、ジルベール・ベコー、ジュリエット・グレコ、ハリー・ベラフォンテ、オマーラ・ポルトゥオン、オデッタ、ジュルジュ・ムスタキ、メルセデス・ソーサ、シャーリー・バッチー、ミルバ、ボブ・ディラン、ナタリー・コールということになる。この中で、すでに6人の方が亡くなっている。

撮影を始めた当時、私は年齢的にはきわめて遅い出発だったが、駆け出しの写真家として、自分の心が揺さぶられるような舞台との出会いを求めて、発表媒体もないまま必死に撮影させてほしいと交渉し、演奏会場に足繁く通っていた。現在ではもちろんだが、当時でさえ、発表媒体の決まっていな無名の新人は、なかなか会場にさえ入れてもらえなかった。以前に撮った写真や、幸い写真が掲載された出版物を手に、写真が残ればいいとの思いで、音楽事務所を訪れたり、先輩写真家の助手の名目でいっしょに会場に入れてもらっていたものだ。でも今から考えると、写真家にとってまだまだ良い時代だったと思う。だからこそ、今回展覧会場に並べることができたような写真が残ったのだと思う。

現在、写真家と実演家との間に、写真の使用にあたっての共通ルールはない。また法的にも、動く映像については法的規制があるが、静止画については全く規定されていない。しかし前述の私の写真展のように、実演家の実演行為を撮影した写真の利用に関しては、一定のル

ルに従って実演家に敬意を表し報いたいと思う。それは実演家のすぐれた実演行為があつた上に、私の撮影行動によって、初めて写真作品として成り立っているからだ。著名な写真家の中には、自分は自分なりのルールで実演家と付き合っているので余計なことはしないしてほしいという方もいる。しかし私は、現代ではそれぞれの業界の相互の関係ルールを、双方の主張を取り入れた形できり上げていくことが大切だと思っている。

例えば、カ関係で、実演家の写っている写真は、1点ごとに実演家の許諾がなければ使えないとか、1点ごとに高額な料金を支払わないと許諾が得られないなどということになってしまったら、私たちが過去に撮影した写真はほとんどが世に出なくなり、死蔵されることになってしまうだろう。そしてこのことは、実演家の方々にとっても、数少ない決まりきった写真しか人々の目にふれなくなることにもなる。現実には歌舞伎の写真はそれに近い状態にあるし、バレエの写真も同じ道を歩んでいるともいわれている。お芝居の写真についても、劇団の独自公演ではなく、ある芸能プロダクションとの提携公演という形になったりすると、そのプロダクションに所属する役者さんたちの肖像権はプロダクションが一括管理することになり、その公演の宣伝広報のために指定された写真家の公式記録写真以外は、一切撮影が許されないという事態が起こっている。このような完全に管理された状態では、今回の私の展覧会のような、撮影から数十年経ってから未発表作品も含めて、一定のテーマで展示するなどということは起り得なくなる。今、私がライフワークとして取り組んでいる「ブレヒト劇づくし」とか、「私の観た井上芝居」などというのは不可能になってしまう。

そこで提案なのだが、撮影については、一定の技量をもつ者で、公演効果を妨げないということに条件に認めること。使用にあたっては、実演家の名誉を傷つけないことを前提に認め、得た収入の一定の料率（印税のように）で実演家団体に使用料を支払い、分配は実演家団体が行うという内容で、写真家の団体と実演家の団体との間で団体協約を結ぶというようなことは、いかがなものだろうか。

もっとも、これは実演家の写真の一般利用についてであり、商業利用については事前許諾と、使用料や使用条件についての契約にもとづいて行うという、現状と同じ条件で考えている。

\*あがた・せいじ：1937年岩手県小岩井農場生まれ。大学卒業後、富士通信機製造株式会社（現・富士通）勤労部人事課勤務。その後、音楽鑑賞団体で舞台写真を撮る業務につくことになり、音楽のステージ写真にのめりこみ、ついにプロの写真家に。社団法人日本写真家協会会員。協同組合日本写真家ユニオン副理事長。